

「介護福祉士のあり方及びその養成プロセスの見直し等に関する検討会」平成18年4月10日 資料Ⅰ-②
(認知症介護研究・研修東京センター
永田久美子主任研究主幹提出資料)

関連資料

○資料 1 1

○資料 2 3

○資料 3 4

○資料 4 16

資料 1

注)認知症ケアの現場の事業者組織が、プロとして何を大切にすべきか話し合いまとめたものです。これが人材育成のプログラムやサービス評価の項目作りに発展していきました。

利用者の権利

グループホームは、痴呆によって自立した生活が困難になった方々に対して、安心と尊厳のある生活を営むことを支援するためのものです。それは家庭的ななじみのある環境、少人数の親しみのある人間関係、あるがままを受け入れる温かい雰囲気、それまで慣れ親しんできた生活の継続と残された能力をできるだけ活かした生活の組み立てによってもたらされます。

グループホームの利用者には、痴呆についての正しい理解および介護サービスについての専門的な知識と技術を持つ職員チームによって、一人ひとりの状況と希望に合わせた適切な介護サービスを受ける権利があります。

全国痴呆性高齢者グループホーム協会は利用者が当然持つものとして、下記の10の権利とサービス提供者が守るべき10の倫理綱領を表明します。本会を構成するすべての者は、これらを尊重し守ることを誓います。

また、利用者とその家族が権利を行使することによって、いかなる不利益を受けることがないことも併せて宣言します。

利用者の権利

利用者と家族等は以下の権利を事業者に対して主張することができます

1. 独自の生活歴を有する個人として尊重され、プライバシーを保ち、尊厳を維持する権利
2. 生活や介護サービスにおいて、十分な情報が提供され、個人の自由や好み、および主体的な決定が尊重される権利
3. 安心感と自信をもてるよう配慮され、安全と衛生が保たれた環境で生活する権利
4. 自らの能力を最大限に発揮できるよう支援され、必要に応じて適切な介護を継続的に受ける権利
5. 必要に応じて適切な医療を受けることについて援助を受ける権利
6. 家族や大切な人との通信や交流の自由が保たれ、個人情報を守られる権利
7. 地域社会の一員として生活し、選挙その他一般市民としての行為を行う権利
8. 暴力や虐待および身体的精神的拘束を受けない権利
9. 生活や介護サービスにおいて、いかなる差別を受けない権利
10. 生活や介護サービスについて職員に苦情を伝え、解決されない場合は、専門家または第三者機関の支援を受ける権利

倫理綱領

私たちグループホームで働くものは、痴呆によって自立した生活が困難になった方々の安心と尊厳のある生活を守るために力を尽くすことに、使命感と誇りを感じています。

グループホームの利用者は自分で自分を守ることが難しくなっております。また、介護サービスは、利用者のプライバシーを守るため、人目に触れない形で提供されるという特性をもっています。それだけに、グループホームで働く私たちは常に公正でなければならぬと自覚しています。

私たちは利用者の利益を守ることを第一に考え、自らの行動の規範として以下の倫理綱領を守ることを誓います。このことは利用者の安心と尊厳のある生活を守ると共に、グループホームに対する社会の信頼感を高め、ひいてはグループホーム事業の存続と発展に資するものと信じます。

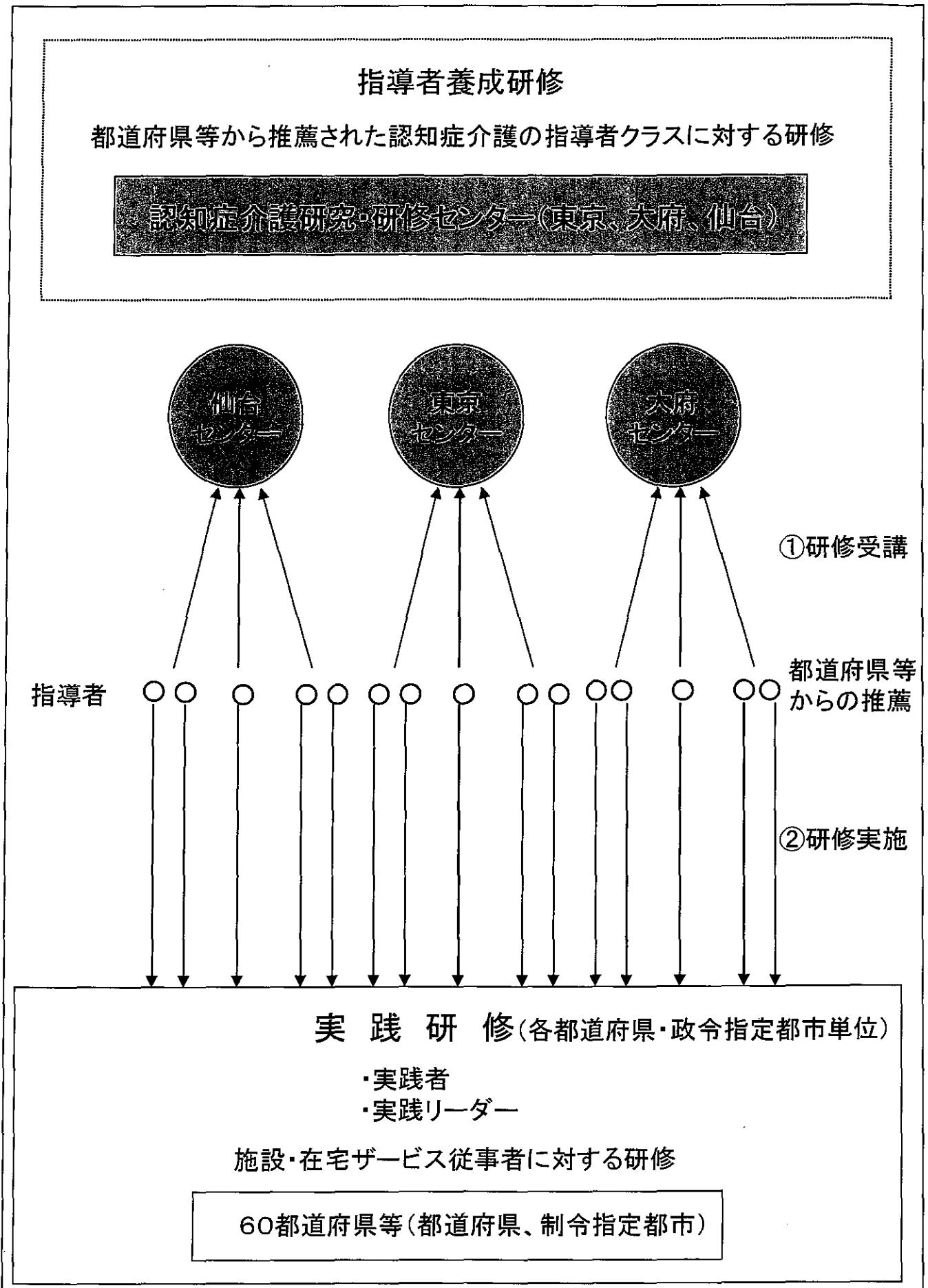
痴呆になっても住み慣れた町でふつうの生活が続けることができるグループホームが、多くの地域で生まれ、明るい長寿社会づくりに役立つようにしたいという私たちの夢が実現することを心から願っています。

倫理綱領

1. 私たちは、利用者を個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活を実現するよう努めます。
2. 私たちは、利用者が主体的な決定を行えるよう支援し、その決定を尊重します。
3. 私たちは、利用者が安らぎと自信を感じることができ、かつ安全と衛生が保たれた環境で生活ができるよう援助します。
4. 私たちは、利用者がその能力を最大限に発揮できるように努め、適切な介護を継続的に行うとともに適切な医療が受けられるよう援助します。
5. 私たちは、利用者が家族や大切な人との通信や交流がはかれるよう支援し、個人情報の情報を厳重に守ります。
6. 私たちは、グループホームを地域に開かれたものにするとともに、利用者が地域社会の一員として生活することを支えます。
7. 私たちは、暴力や虐待および身体的精神的拘束を行いません。
8. 私たちは、いかなる理由においても差別は行いません。
9. 私たちは、苦情を前向きにとらえ、職員チームが一体となってより良いサービスにつながるよう努力します。
10. 私たちは、この事業の社会的責任を認識し、介護サービスに携わる者としての研鑽に努めるとともに健全な運営によってサービスの継続性を確保するよう努力します。

資料2

●認知症介護研修ネットワーク



資料3

(1) 認知症介護実践研修 標準カリキュラム

ア 実践者研修

講義・演習 36時間(2,160分)	実習 他施設実習1日	職場研修 4週間	実習のまとめ 1日
-----------------------	---------------	-------------	--------------

イ 実践リーダー研修

講義・演習 57時間(3,420分)	実習 他施設実習3日以上	職場研修 4週間	実習のまとめ 1日
-----------------------	-----------------	-------------	--------------

(2) 認知症介護指導者養成研修 標準カリキュラム

講義・演習 40時間(5日間)	実習等 200時間(25日間)	職場実習 4週間
--------------------	--------------------	-------------

(3) 認知症介護指導者フォローアップ研修 標準カリキュラム

講義・演習 28時間(1,680分)	研究授業 12時間
-----------------------	--------------

(1) 認知症介護実践研修 標準カリキュラム

ア 実践者研修

教科名	目的	内容	時間数	区分	必修科目
1 認知症介護の理念					
(1) 認知症介護実践研修のねらい	研修の目的と目標を示し、それらに沿って研修カリキュラムがどのように組み立てられているかを理解し、受講の方向性を明確にする。加えて、研修の機会を、研修生のストレス緩和の場、情報交換、ネットワークづくりの場に活用することをうながす。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修目的・目標の明示。 ・目的・目標とカリキュラムの関係を明示。 ・研修の機会を、主体的、積極的に自分の学習の場として活用する意義の明示。 	60分	演習	
(2) 新しい認知症介護の理念の構築	高齢者の能力に応じて自立した生活を保障するために求められる介護理念を、グループワークを通して検討し、自分の言葉で構築することを目指す。その際に、先進的な事例を複数例示し、抽象的にならず具体的に検討することをうながす。	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的介護サービス事業所の理念の提示(2つ以上の複数であること)。 ・演習を通して他研修生の意見を聴き、自分の介護を振り返る。 ・介護理念の再構築 	300分	演習	
(3) 研修の自己課題の設定	「ねらい」「理念の再形成」を元に、研修中の個人課題の設定を行なうことで、主体的には研修に参加する態度をうながす。なお、課題は、実習まで含むこととする。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修中の課題設定。 ・課題を文章として示す。 	60分	演習	
2 認知症高齢者の理解と生活の捉え方					
(1) 医学的理解	認知症という病気と症状の説明で終るのではなく、医学的理解が認知症介護を行うにあたって必要とされる理由が理解されること。医学面からの本人の生活に及ぼす影響を示し、生活障害としての理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の原因疾患とそれに伴う障害等の内容およびそれらが個人の生活活動に及ぼす影響。 ・自立支援の中で医学の果たす役割の提示。 	60分	講義	○

教科名	目的	内容	時間数	区分	必修科目
(2) 心理的理解	認知症によって高齢者の心理にどのような変化が生じ、それが生活面にどのような影響を与えるかを学び、高齢者の心理面の理解を深めること。高齢者への周囲の不適切な対応・不適切な環境が及ぼす心理面の影響の内容を理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢や老化による心理面への影響と認知症が及ぼす心理面への影響。 ・それらが個人の生活活動に及ぼす影響。 ・周囲の対応。 ・環境が個人に及ぼす心理面の影響。 ・自立支援の中で心理的理解が果たす役割の提示。 	60分	講義	○
(3) 生活の捉え方	「医学的理解」「心理的理解」の講義を基に、認知症という障害を抱える中で自立した生活を送ることの意味と、それを支援することの重要性を講義のみではなく、演習を通して理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> ・生活障害としての認知症の理解。 ・個人と認知症との関係の理解。 ・生活支援の重要性の理解。 ・演習は90分以上であること。 	120分	講義＋演習	○
(4) 家族の理解・高齢者との関係の理解	家族介護者のみではなく、他の家族も含めた家族の理解と、高齢者と家族の関係を通して、認知症介護から生じる家庭内の様々な問題や課題を理解し、家族への支援の重要性の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者と家族との関係。 ・認知症が家庭内に与える影響(介護の困難さを含む)。 ・家族支援の方法と効用。 ・講義には家族を講師として採用する等の広い人材の登用を考慮すること。 	90分	講義	○
(5) 意思決定支援と権利擁護	認知症により、日常生活の中で制限されてしまう個人の自由や意思決定が、本来どのように保障されるべきかを理解すること。その阻害の例として、虐待、拘束の内容を理解し、人権擁護の具体的な方法の理解を深めること。	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の人権の重要性。 ・自由の尊重と意思決定の尊重。 ・虐待・拘束の定義と具体的内容。 ・人権擁護・成年後見制度。 	60分	講義	○
(6) 生活の質の保障とリスクマネジメント	認知症を抱えたことで生じる生活上の困難は、本人の生活の質の低下のみならず、事故の危険性も高めることを知る。従来リスクマネジメントは、事故に対する危機管理が中心であったがそれだけではなく、認知症を抱えた個人の生活の質を継続に保証するためのリスクマネジメントのあり方を学ぶこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症が及ぼす事故の危険性の内容。 ・個人の生活の質の保障の重要性。 ・認知症介護に求められるリスクマネジメントの目的と内容。 ・家族の了解を含めたリスクマネジメントの方法。 ・(前述の講義を受け)安全管理と人権の関係の理解。 	60分	講義	○

教科名	目的	内容	時間数	区分	必修科目
(7) 認知症高齢者の理解に基づいた生活のアセスメントと支援	「医学的理解」から「生活の質の保障とリスクマネジメント」の講義を基に、高齢者が、自分の能力に応じて自立した生活を送るための支援として必要な、認知症介護のアセスメントと生活支援の方法の基本を理解すること。	・介護現場で、介護理念と個人の介護目標を結びつけることの重要性。 ・認知症介護におけるアセスメントとケアプラン作成の際の基本的考え方。	120分	講義	○
(8) 事例演習	上記の講義をうけ、事例(これはモデル事例もしくは研修生からの提出事例を使用する)を用いて、個人への支援にたったアセスメントと生活支援の方法の基本を理解すること。	・事例演習による具体的な考え方の体験的理解。 ・援助方法の展開の体験的理解。	180分	演習	○
3 認知症高齢者の生活支援の方法					
(1) 援助者の位置づけと人間関係論	高齢者、家族、その他の援助者、地域住民との対人関係のとり方を理解し、援助者に求められる位置づけとあり方の理解を深めること。	・高齢者、家族、他の援助者、近隣住民等との関係の持ち方の基本。 ・援助者の位置づけとあり方。	90分	講義	
(2) コミュニケーションの本質と方法	高齢者でだけではなく、家族や他の援助者等とのコミュニケーションに際して、コミュニケーションの本質(意義・目的とすること)を理解し、その上で実践で活用できる技法の基本を理解すること。	・コミュニケーションをとることの意義と目的。 ・高齢者とのコミュニケーション技法。 ・家族とのコミュニケーション技法。 ・他の援助者とのコミュニケーション技法。	90分	講義	
(3) 援助関係を築く演習	「援助者の位置づけと人間関係論」「コミュニケーションの方法」の講義を踏まえた演習を通して、実践で活用できる技術を身につける。	・事例を用いた具体的な援助展開の方法の体験的理解。	120分	演習	
(4) 人的環境と住居環境を考える	高齢者を取りまく人間関係としての人的環境と住まい(自宅、GH、施設など)を中心とした居住環境の理解を深め、二つの環境の持つ意味を考え、援助者として環境に働きかける重要性を理解すること。	・人間関係としての人的環境の内容と生活に与える影響。 ・すまいとしての住居環境の内容と生活に与える影響。	120分	講義	○

教科名	目的	内容	時間数	区分	必修科目
(5) 地域社会環境を考える	人的環境と居住環境を取り巻く、地域社会、社会制度などの地域社会環境の理解を深め、その環境の持つ意味を考え、援助者として環境に働きかけることの重要性を理解すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域社会環境の内容。 ・生活に与える影響。 ・地域社会環境との関係の取り方。 	120分	講義	○
(6) 生活環境を考える演習	上記2講義を踏まえて、事例を通して具体的に介護における環境のあり方の理解を深め、環境への関わり方を考えること。	<ul style="list-style-type: none"> ・事例を用いた体験的理解。 ・環境への関わり方の具体的な方法の検討。 ・家族の位置づけは、家族支援の視点も含めること。 	120分	講義	○
(7) 生活支援の方法	「認知症高齢者の生活支援の方法」の教科のまとめとして、高齢者が、様々な人的・物的・社会的環境の中で生活していくことを、どのように支援していくべきかを理解し、事例演習を通してその方法を考えること。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な生活支援のあり方。 ・その援助方法・環境調整、地域資源の活用の重要性。 ・事例を用いた体験的理解具体的な方法の検討。 ・家族の位置づけは、家族支援の視点も含めること。 ・演習は60分以上であること。 	90分	講義＋演習	○
4 実習					
(1) 実習課題設定	本研修の目的に基づき、「研修の自己課題」の内容と、講義演習の受講を踏まえ、研修成果を実践で活用できる知識・技術にするための実習課題を設定すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の研修課題と研修の成果に基づいた実習目標の設定。 ・他施設での見学実習、職場実習の目標設定に際しての、実習展開例(別に添付)を提示すること ・本研修目的に沿っていること。 	240分	演習	
(2) 実習1: 外部実習	他の介護保険事業場への1日の見学実習を通して、自己の設定した課題の達成をめざし、その成果を得ること。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習課題に沿った実習の展開。 ・研修目的に沿っていること。 	1日	実習	
(3) 実習2: 職場実習	職場での4週間の実習を通して、自己の設定した課題の達成をめざし、その成果を得ること。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習課題に沿った実習の展開。 ・研修目的に沿っていること。 	4週間	実習	
(4) 実習結果報告まとめ	実習が設定した課題に沿って実施できたかを各自で振り返り、報告し、実習課題がどの程度達成できたかを評価すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・実習課題に沿った実習展開の結果を整理し報告する。 ・研修全体の自己評価の実施。 ・他研修生の自己評価の確認。 	1日	演習	

(1) 認知症介護実践研修 標準カリキュラム

イ 実践リーダー研修

教科名	目的	内容	時間数	区分
1 認知症介護の理念				
(1) 研修のねらい	研修の目的と目標を示し、それに沿って研修カリキュラムがどのように組み立てられているかを理解し、研修の方向性を明確にする。加えて、研修の機会を、研修生のストレス緩和の場、情報交換、ネットワークづくりの場に活用することをうながす。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修目的 ・目標の明示。 ・目的・目標とカリキュラムの関係を明示。 ・研修の機会を、主体的、積極的に自分の学習の場として活用する意義の明示。 	60分	演習
(2) 生活支援のための認知症介護のあり方	職場の介護理念を振り返る前に、認知症介護において今後もとめられる「能力に応じ自立した生活」を支援するための認知症介護のあり方を、具体的な取り組みを行なっている事例を用いて学ぶことで、具体的なイメージを持つこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険法に基づいた自立支援のあり方。 ・地位ケアのあり方。 ・具体的事例の提示(2つ以上であること)。 ・事例を用いた演習。 ・演習は60分以上であること。 	120分	講義+演習
(3) 介護現場の介護理念の構築	「生活支援のための認知症介護のあり方」を踏まえて、自分の職場の理念を振り返り、新しい認知症介護理念構築を行うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の職場の理念の振り返り。 ・新しい理念の構築。 ・これらを演習を通して行う。 	180分	演習
(4) 介護現場の認知症介護のあり方に関するアセスメント	「生活支援のための認知症介護のあり方」「介護現場の介護理念の構築」講義、演習を踏まえ、自分の職場の認知症介護に関するあせるメントを演習を通して行い、職場における認知症介護に関する課題を明らかにすること。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の職場のアセスメントを演習を通して行う。 ・自分の職場の課題と改善点を明らかにする。 	180分	演習
(5) 研修参加中の自己課題の設定	上記4つの講義、演習を踏まえて、研修中の個人の課題設定を行うことで、主体的に研修に参加する態度をうながす。なお、課題は、実習まで含むこととする。	<ul style="list-style-type: none"> ・研修中の課題設定。 ・課題を文章として示す。 	60分	演習